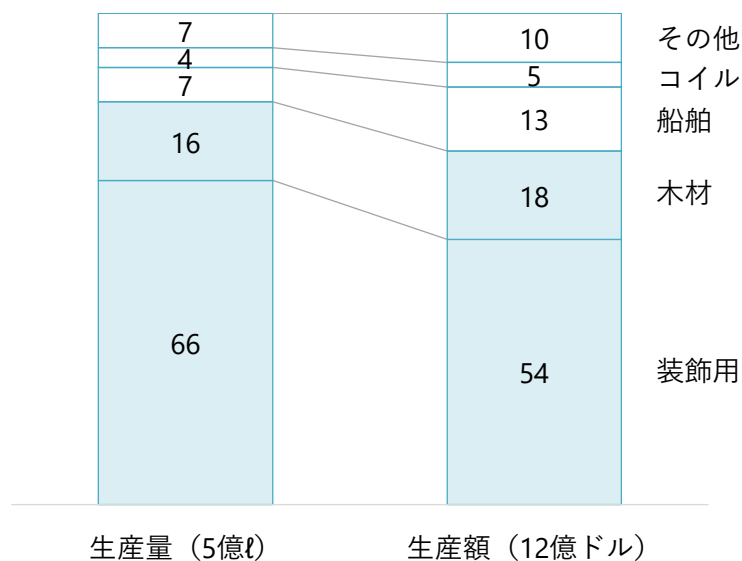


## 塗料市場で工業用の需要拡大

現在、ベトナムには約 600 社の塗料企業が存在している。その中で外資系企業は 30 社ほどしかないが、アクゾノーベル（オランダ：世界シェア 1 位）、PPG Coatings（アメリカ：同 2 位）、関西ペイント、日本ペイント（日本：同 9 位、12 位）、Jotun（ノルウェー）、Hempel（デンマーク）を始めとした大手企業が市場シェアの 65%を占めている。それに対して、国内企業も海外のブランド企業に負けじと力を注いでいる。

2013 年において、ベトナムは年間 5 億 ℓ もの塗料、塗装を生産しており、その額は約 12 億ドルに相当する。一般的に、塗料は 2 種類のものに分かれており、1 つは家やビルに使われる装飾用塗料で、もう 1 つは船舶や木材、コイル、車両などに使われる産業用塗料である。2013 年における同産業は全体で年率 10%の成長を見せており、2010 年比で 13%増となった。

ベトナムの塗料市場構造（2013 年：%）



しかし、現在の塗料市場は装飾用塗料が大きなシェアを占めており（総生産量の 66%、総価格の 54%に当たる）産業用塗料の分野は成長できる余地があると思われる。

ベトナムは工業化に力を注いでいるため、塗料を必要とする工業製品も大いに増えている。特に、2014 年におけるベトナムの木材生産量は 650 万 m<sup>3</sup>であった（2013 年比で 15%増）。同国では現在 120 社の造船企業があり、総生産量は 1 年で重量 100 万トンにのぼり、これは年 5～10%の成長率である。同様に、ベトナム工商省による各年間総生産量の報告では、鋼鉄が 1,200 万トン（2013 年比で 15%増）、バイクは 400 万台（2013 年比で 2%増）、車は 20 万台（2013 年比で 4.4%増）であった。このような工業生産高の増加と毎年 10～15%の産業用塗装における需要増加があることから、2014 年には約 6 億ドル

に及ぶ産業用塗装の需要があると考えられる。

そういった需要の高まりから塗装、塗料産業における投資の見込みは高く、特に海外からの投資は大いに存在する。ベトナムでは労働コストが低く、政府からの有利な政策（外資系企業から技術移転の促進や工業支援への注力、外国人投資家のための法的手続き簡略化など）があるため、より多くの外資系企業が同産業における未来に可能性を感じ、ベトナム内の工場に投資をしてきた。例として、アクゾノベルは2012年に初の木材塗装の工場を建てると同時に製造工場を拡大し始めた。また、Jotunは2013年に木材塗装の流通とビンズオン省にある倉庫設備に800万ドルを投資している。最近では、2014年10月に日本ペイントがベトナムに3つ目となる工場を設立し、自動車や船、重工業、保護塗料用の産業用塗装に注力しており、これは長期的拡大戦略の一端となるだろう。

しかし、チャンスは同業のサプライチェーンにもより多く存在し、実際に塗料、塗装製品の原料が行き届いていない未開発のところもある。Kansai Alphanamの代理店はそこに目を付け、ほぼ100%の原料を日本、ヨーロッパ、タイ、シンガポールなどから輸入し始めた。2013年におけるベトナムの原料総輸入額は約2億ドルに達した。塗料、塗装の原料を供給する化学会社に投資をすることで、外国企業はより低コストで原料を得ることができ、したがって利益も上げることに繋がるだろう。